

社教連会報

発行 社団法人 全国社会教育委員連合

〒100 東京都千代田区霞が関3-2-3
国立教育会館内 Tel 03-3580-0608

生涯学習社会の構築に向けて

文部省生涯学習局長

泊 龍 雄

目前に迫った二一世紀に向けて、創造性豊かな活力ある我が国社会を形成して行くためには、「学習社会」の弊害を是正し、人々が生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような「生涯学習社会」を着実に構築していくことが引き続き教育改革の重要な課題です。

今年、昭和六十三年に生涯学習局が設置されてから七年目、平成二年に「生涯学習振興法」が制定されてから五年目、平成四年に生涯学習審議会の第一回の答申が出されてから三年目となります。

「生涯学習」の考え方については、近年関係者の理解も深まり、相当定着してきました。また、人々の学習活動に対する関心や意欲も一層多様化・高度化する傾向にあります。これらの二つに適切に対応するため、①都道府県

における生涯学習推進センターの設置と広域的な生涯学習サービス網の整備、②生涯学習ボランティア活動の支援・推進、③生涯学習推進事業の実施と指導者の養成・確保など地方公共団体における「生涯学習振興のための基盤整備」を総合的に推進することが当面の第一の課題であると考えております。

第二の課題は、「学校の生涯学習機能の拡充」を図ることです。

特に、放送大学については、テレビ・ラジオ等の多様なメディアを効果的に活用して、広く社会人等に大学教育の機会を提供していますが、現在の放送エリアは関東地域の一部に限られています。放送衛星を利用した全国化の推進を図るため、地域学習センターの計画的整備など所要の準備を進めていくところです。

また、社会人の高等教育機関等への

アクセスの拡充を図るため、引き続き生涯学習体系への移行を目指した大学改革・高校改革等が積極的に推進されることが期待されますが、新たに、専修学校の特性を生かした職業人再教育システムの調査研究の実施も予定しています。

第三の課題は、「生涯学習社会における社会教育の振興」を図ることです。

多様な学習活動を積極的に展開するため、現代的課題等に対する学習機会の充実を図ることが重要であると考えますが、新たに、博物館、少年自然の家等の専門的施設の持つ人的・物的な機能や立地条件等を生かした高度かつ専門的な学習プログラムの研究開発を行うこととしております。

また、最近の社会環境等にかんがみ、社会教育、スポーツ、文化活動等を通じた青少年の学校外活動や家庭教育の振興を重視するとともに、生涯学習社会における望ましい学習環境づくりのため、地域における生涯学習センターとしての大型公民館（ハイメディア型施設を含む）や図書館等を中心に公立社会教育施設の整備を促進することが重要であります。

以上のように、生涯学習行政は様々な当面の課題を抱えています。関係各位の御理解と御支援により、生涯学習社会の構築を一步一歩確かなものにしていくよう努力してまいりたいと考えております。

第36回全国社会教育研究大会(岩手大会)を終えて

秋の気配を感じさせるみちのく岩手
に、全国各地から二千名の社会教育関
係者の方々をお迎えして、第三十六回
全国社会教育研究大会(岩手大会)が
十月四日から六日まで盛岡市で開催さ
れました。

初日はあいにくの曇り空で、诗情豊
かな岩手路を象徴する秀峰岩手山の姿
は望めませんでした。清流中津川畔
に立つ会場の岩手県民会館は、再会を
喜ぶ晴れ晴れとした参加者で埋め尽く
されました。

今年はいわゆる「生涯学習振興法」
が制定されてから早や五年目を迎える
年です。着々と生涯学習推進体制の整
備が進む中で、今後一層問われてくる
のはその活動の興味だと思えます。

今、あらためて生涯学習と社会教育
の関係をみつめ直し、社会教育が持つ
役割を吟味する意味で、本大会の主題
は、「生涯学習社会の形成をめざす社会
教育のあり方を考える」生きがいの
発見と創造を求めてと設定されまし
た。

開会行事の中で、全国社教連の鈴木
勲会長が、「生涯学習の基盤整備を推進
する核は、長い歴史と伝統をもって専
門的な人材と施設を有する社会教育で
あり、その役割は今後益々重要になる」

と、力強く呼びかけられたのが印象的
でありました。

このあと、長年にわたり社会教育の
振興に尽くされた六十六名の方々の表
彰があり、壇上に勢揃いした受賞者に
万雷の拍手が送られました。

引き続き行われたシンポジウムは、
「豊かで活力ある社会と学習ボラン
ティア」をテーマに、日本YMCAの
吉永宏さん、国立信州高遠少年自然の
家の松下俱子さん、地元花巻市のボラ
ンティア平賀喜代美さん、岩手大学教
授の石川桂司さんの四人を講師に迎え
て行われました。

このシンポジウムは、二日目の部会
討議の導入として、基調講話の性格を
もたせようと企画されたものです。各
講師ともボランティアの経験をもつ
方々で、学習ボランティアの特色や社
会的背景、自己変革と生きがい、活動
のきっかけづくりや素材、ボランティア
の支援方策や条件づくり、社会的評
価など、幅広い示唆に富んだご指導を
いただきました。

生涯学習振興策の具体的課題となっ
ている学習ボランティアの問題が、全
国大会でこれほど真正面から取り上げ
られたのは画期的なことでした。
第二日目は、十部会に分かれて研究

討議が行われました。各部会とも二名
の問題提起者のほか、参加者からも積
極的に事例や課題が報告され、終日熱
気溢れる討議が続けられました。

特に今回は、主題との関連で「社会
教育行政部会」が設けられ、最多の参
加者数のもとに生涯学習の基盤整備を
めざす推進体制や計画づくりが話し合
われました。

また、「国際理解と開発教育部会」も
新たに設けられ、従来からの国際交流
の討議と併せて、国際化時代における
開発教育にも目を向けた討議が行われ
たことは一つの収穫といえます。

第三日目は、大阪市立大学名誉教授
佐藤全弘先生をお迎えして、「現代に生
きる新渡戸稲造」と題して記念講演を
いただきました。

新渡戸は岩手出身です。佐藤先生は
「新渡戸は五千円札に登場して十年に
なるがどんな人か必ずしも十分理解さ
れていない。」と指摘した上で、教育者、
農学者、日本学者、国際人、言論人、
思想家として多方面にわたった功績を
紹介し、新渡戸の思想である「人格の
向上」「共存協和」「自然への愛」は、

その根底に人格尊重の考えが流れてお
り、この思想は正に現代に生きる新渡
戸稲造である、と強調され、参加者に

深い感銘を与えました。

大会の締めくくりとして、「人権教育
の推進」「健全な青少年の育成」「社会
教育施設と指導者の充実」「社会教育関
係法の整備」「財政基盤の確立」の五項
目を内容とする大会宣言を決議し、一
層の努力を誓い合いました。

最後に、次期開催県である和歌山県
社会教育委員連絡協議会の久昭三会長
の挨拶をもって大会の幕を閉じまし
た。

本大会では、参加者のために地元の
女性学習ボランティアによる大会速報
が発行されたほか、石川啄木がよくな
く愛した古里岩手の風土、永遠の理想
を求め続けた宮澤賢治が理想郷イーハ
トーブと呼んだ岩手を紹介する「ド
リームランド・イーハトーブ」と題す
るパフォーマンスは、大変ご好評をい
ただき嬉しく思っております。

最後になりましたが、本大会の開催
に当たり、ご指導ご協力をいただいた
関係機関・団体をはじめ、講師、役員
等の方々には心から感謝申し上げます。

本大会の岩手開催が決定されて以
来、参加者の皆様を温かくお迎えする
ために、関係者一丸となって準備した
会の運営に当たりましたが、何かと不
行き届きの点がありましたことをお詫
び申し上げます。大会の報告とお礼の言葉
をいたします。

岩手県社会教育連絡協議会会長
第三十六回全国社会教育研究大会
実行委員長 水本 光夫

地区研究大会を終えて

北海道地区社会教育研究大会を終えて

紅葉に彩られた絶景の好季節に、生涯学習の先進都市として、また、コスモスのまちとしても広く知られている道央の滝川市で、第34回北海道大会が十月十三日と十四日の両日にわたり開催されました。

大会には全道各市町村の社会教育委員をはじめ、社会教育行政職員・社会教育諸団体の会員等七百二十余名が参加し、生涯学習社会における社会教育の今日的課題を把握するとともに、多様化するニーズに対応した社会教育活動の推進をめざし、真剣な熱のこもった研究協議が展開されました。

研究大会の概要

- 期日 平成六年十月一三日～一四日
- 会場 滝川市文化センター・他
- 参加費 三千五百円
- ほかに交歓会費 五千円
- 研究主題

「地域の特性を生かし、ともに学び、ともに生きる社会教育の創造をめざして」

シンポジウム

「生き生きとした生涯学習社会のビジョンを求めて」
登壇者は、それぞれの分野で活躍し、

数多くの業績をもち社会教育に幅広く関わりをもち、実践している方々であり、深まりのある話し合いが展開され、参加者に多くの示唆と感銘を与えました。

部会討議

- 第一 生涯学習の推進
 - 第二 青少年の社会参加の促進
 - 第三 成人の生涯学習体制の整備
 - 第四 高齢者の生きがいづくり
 - 第五 地域に根づくスポーツ活動
 - 第六 地域文化の創造と振興
- それぞれの部会では、提言をもとに熱心な意見交換が行われました。各地の実態は異なりますが、生涯学習社会の実現に向かって懸命に努力している様子に感激しました。

講演 「このごろ思うこと」

静修大学教授・書家 小川 東州
二日間にわたって開催された大会も大会宣言採択の後、引き続き閉会式が行われました。

主催者側の大会成功の謝辞のあと、次期開催地代表の挨拶があり、大会の全日程を終了しました。

北海道社会教育委員連絡協議会
事務局長 赤坂 正

関東甲信越静地区社会教育研究大会を終えて

本大会は、谷川岳や利根川の源流など、豊かな自然環境に恵まれた、群馬県水上町を会場に「生涯学習社会の実現に向けた社会教育の充実・振興」の研究主題のもとに、一都十県から多数の参加者を得て開催されました。

研究大会の概要

- ①期日 平成六年九月八日～九日
- ②会場 水上町観光会館 他
- ③参加費 三千円
- ④参加者数 一、四三九名
- ⑤研究主題

「生涯学習社会の実現に向けた社会教育の充実・振興」

基調講演

「生涯学習社会の実現に向けた社会教育の充実・振興」
東京家政大学教授 伊藤俊夫

分科会の構成

- ⑦分科会の構成
- 第一 生涯学習推進体制「生涯学習とまちづくり」
- 第二 学習機会「多様な学習要求への対応」
- 第三 生涯学習施設「生涯学習施設の整備・充実と活用」
- 第四 家庭教育「これからの家庭教育の役割」
- 第五 青少年教育「青少年の学校外活動の充実」
- 第六 高齢者教育「高齢者の生きがいづくり」

記念講演

「ことばと人間関係」聞き上手のすすめ」
元NHKチーフアナウンサー

生方 恵一

成果

① 基調講演では、社会教育と生涯学習について、また、今日の幅広い社会教育を、いかに焦点化していくかという問題点や、より次元の高い学習機会を提供するという社会教育に課せられた課題等を明快に話され、参加者へ大きな指針を与えていただきました。

② 分科会では、「豊かな住みよいまちづくり」をめざした活動事例など社会教育の今日的課題や、社会教育委員の役割等を中心に熱心な討議がなされました。

③ 記念講演では、人間関係の原点に戻って「ことば」の面からコミュニケーションをはかる上での「聞く」ことの大切さを話されました。

三 おわりに
本大会が盛会裡に終了することができましたのは、当日御参加いただいた皆様をはじめ、関係各位の御協力のお賜物と感謝し報告いたします。

群馬県社会教育委員連絡協議会
事務局 深沢博行

東海北陸地区社会教育研究大会を終えて

霊峰立山連峰を望む富山市に、東海北陸六県一市の社会教育委員並びに社会教育関係者が集い、「第二十五回東海北陸社会教育研究大会」を「第六回全国生涯学習フェスティバルまなびピアとやま'94」の主催事業として開催いたしました。

本県における社会教育関連事業の体系化や施設の有効活用さらに学習環境の総合的整備など、フェスティバルを通してつぶさに見ていただくよい機会となりました。

以下、大会の概要を紹介します。

○研究主題

「生涯学習社会における地域の特性を活かした社会教育の在り方を考える」

○期日 平成六年十月七日〜八日

○会場 富山県民会館

○参加者数 九一九名

【第一日目】

富山に伝わる三つの民謡の優雅なアトラクションの雰囲気の中で幕を開けた開会行事では、奥田会長の力強い挨拶、十三名の表彰式に続き、県・市の来賓より激励と歓迎のことばをいただきました。次いで、金沢大学の佐伯信男教授の進行により、各県・市の提案発表に移りました。

名古屋市 社会同和教育の推進

〈啓発と指導者の養成〉

石川県 「山中町国際交流協会」設立の歩みと今後の展望

福井県 「青葉の笛」による地域づくり〜残された一本の笛から〜

岐阜県 各機関がそれぞれの機能を發揮した青少年健全育成

三重県 上野市における生涯学習推進計画の策定について

愛知県 生涯学習を総合的に見た「年次別学習内容」の重要ポイントを考える

富山県 富山市における生涯学習関連施設のネットワーク化と有効活用（紙上発表）

発表後の情報交換では、活発な意見が交わされ、それをまとめる形で佐伯教授から助言と講話をいただきました。

【第二日目】

心豊かでたくましい人間の育成や人権の尊重、社会教育委員の責務の明確化等社会教育関係法の整備を図るなどを大会宣言として採択した後、大会旗は岐阜県に引き継がれました。

この後、全国生涯学習フェスティバルの生涯学習見本市会場に移動し、富山大会は成功裡に幕を閉じました。

終わりに各県・市の大会役員、実行委員の方々をはじめご参会の皆様によりお礼申し上げ報告いたします。

富山県社会教育委員連絡協議会 事務局 西田一弘

近畿地区社会教育研究大会を終えて

梅雨の時期にもかかわらず好天に恵まれ、全国的に名高い出湯の町城崎にて近畿二府四県の社会教育委員はじめ社会教育関係者約一〇〇〇名が相集い、実り多い研修会が開催されました。

「近畿は一つ」の合言葉の下、国際家族年に因み研究主題を「生涯学習社会をめざした家庭づくり・地域づくり」と定め研修を深めました。

また、本年の主催県となった兵庫県では、時を同じくして「但馬・理想の都の祭典」が開催されており、その一環としての「大但馬展」を見学していただきました。

この「大但馬展」は但馬の大自然の中で多彩な伝統や文化を培い、多くの偉大な人物を輩出させてきた息吹に触れ、訪れた人々に「あしたのふるさと」を確認していただき、新しい世紀のライフスタイルと地域づくりを考えようとするものでした。

丁度大会テーマと符合したものであり、地域づくりや家族について改めて考える機会となりました。

以下、大会概要を紹介します。

○期日 平成六年六月二一日〜二二日

○会場 城崎大会議館（城崎町）

○基調講演

「家族という集団を作るサル」

京都大学名誉教授 河合雅雄

「家族を考えていく上で一夫多妻の民族が八割存在することを念頭に置き考

えなくてはならない。サルにも一夫一妻や一夫多妻がある。しかし、家族という集団があるのは人間だけである。とりわけ、その集団に父親がいる。サルは母親が子育てをする人間だけが持つ家族集団では、①所属している集団を守る ②集団を維持する経済活動をする ③子どもの養育にあたる。という三つの役割が果たさせてこそ父親である。」以下略

○シンポジウム

「生涯学習と魅力ある町づくり」

シンポジスト

九州女子大学教授 福留 強

コーデインーター

香川県志度町長 樫村正員

滋賀県立図書館長 澤田正春

兵庫県立女性センター所長

清原桂子

各シンポジストの先生からは、町の首長としての生涯学習の町づくり、社会教育センターを活用した町づくり、女性の地位の向上と学習機会の保障という観点に立った町づくりについて、それぞれ興味深く貴重な御示唆をいただきました。

来年度は和歌山市にはおきまして全国大会と兼ねて行われます。大勢の関係者のお越しをお待ちしております。

兵庫県社会教育委員協議会 事務局 立花福太郎

中国・四国地区社会教育研究大会を終えて

山陰特有の薄墨色の空の下、満面に水を湛えた宍道湖のほとり松江市に、

中国・四国各県から社会教育委員をはじめ多数の社会教育関係者をお迎えし、「第十七回中国・四国地区社会教育研究大会」を開催しました。

——研究大会の概要——

○期日 平成六年五月二六日～二七日

○会場 島根県民会館

サンラポーむらくも

○参加費 二千五百円

○参加者数 八百二十三名

○研究主題・シンポジウム主題

「生涯学習社会の実現をめざした社会教育のあり方」

○記念講演

「古代の出雲」

島根県立女子短期大学教授

藤岡 大拙氏

○アトラクション

松江市立女子高等学校プラスバンド部

○分科会の構成

第一 青少年教育 第二 成人教育

第三 社会体育 第四 同和教育

○大会宣言採択

中国・四国地区社会教育研究大会が、本県で開催されるのは、昭和六十年年度第八回大会以来二度目のことです。

この間、急激な社会情勢の変化や、教育改革をめぐる大きな動きの中で、

今や生涯学習社会の構築が急務となつてきています。

また、生涯学習振興法の制定以来、生涯学習推進体制の整備が一層叫ばれ、人々の生涯学習への意欲とその取り組みは、増加・拡大するとともに、多様化・高度化しています。学校週五日制の導入とも相俟って、社会教育の果たすべき役割は、今後ますます重要になってきています。

こうした状況の中、本大会ではシンポジウムや分科会が熱気溢れる中、真剣に研究・討議され、今後の社会教育の進むべき方向性を見いだすべく参加者による熱心な研鑽が行われました。分科会における実践報告も、地域課題解決のための新たな取り組み、長年地道に取り組んだ活動事例など、参加者に大きな感銘を与える発表、意見交換がなされ、大変意義深いものとして終えることができました。

最後に、本年が「国際家族年」に当たり、家庭や社会において子どもたちが健やかに生まれ育つ環境づくり、人々が互いに尊重し認め合う社会実現のための責務を自覚し、努力することを誓う大会宣言を採択し、閉会しました。以上、本大会開催にお力添えを賜りました皆様、御参加頂いた皆様に心よりお礼を申し上げ、報告といたします。

島根県社会教育委員連絡協議会 事務局 大畑修一

九州地区社会教育研究大会を終えて

第二十五回九州ブロック社会教育研究大会は、異国情緒豊かな町並みで知られる長崎市で開催いたしました。

一 研究大会の概要

○大会テーマ

「生涯学習まちづくりの視点にたつ社会教育のあり方」

○期日 平成六年九月八日～九日

○会場 長崎市公会堂 他

○参加費 三千元

○参加者数 約千三百人

大会テーマのもと、六つの分科会に分かれ、人々の生きがい活動を支援し、地域発展を促進するための社会教育の積極的な推進について、熱心な研究協議が行われました。

第一分科会 生涯学習の推進体制では、佐賀県と鹿児島県から「生涯学習の推進体制」について

第二分科会 学習機会及び学習情報提供では、長崎県から「学習機会と情報の提供」、大分県から「生涯学習情報システムの整備と課題」について

第三分科会 生涯学習まちづくりとボランティア活動では、長崎県から「地域住民が主体的に動く生涯学習まちづくり」、沖縄県から「生涯学習まちづくりとボランティア活動」について

第四分科会 青少年の健全育成では、宮崎県から「あしたを担う子どもたちを育てる実践活動」、佐賀県から

「家庭・学校・地域社会が一体となった実践活動を目指して」について

第五分科会 同和教育の推進では、福岡県から「身元調査お断り運動を通しての住民啓発」、熊本県から「PTA会員の人權意識を高めるための研修体制づくり」について

第六分科会 社会教育関係団体の育成では、熊本県と大分県から「社会教育関係団体の育成」について、それぞれ提案課題をにかけて発表されました。

○アトラクション

長崎くんちの代表的な出し物の一つである「オランダ万才」

○記念講演

「私が見た日本の文化と生活」

長崎市文化国際課嘱託

ブライアン・バークガフ二氏

二 成果

大会テーマのもと、生涯学習まちづくりのために積極的に研究協議を行い、生涯学習を推進するための社会教育がどうあるべきかを確認できました。

三 おわりに

この大会を盛会のうちに終わることができたのも、当日御参加いただいた皆様をはじめ、分科会の役割分担者並びに大会役員等関係各位の御協力の賜物と感謝いたします。

長崎県社会教育委員連絡協議会 事務局長 山崎滋夫

大会宣言文

全国各地の社会教育委員をはじめ、社会教育関係者が、詩情豊かな杜と水の都盛岡市に集い、新しい時代における生きがいの創造をもとめて、「生涯学習社会の形成をめざす社会教育のあり方を考える」を研究主題に、第三十六回全国社会教育研究大会を開催した。

平成二年六月、「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」が施行されて以来、国及び地方公共団体における、生涯学習推進体制の整備が着実に進展し、それぞれの地域に合った生涯学習振興のための多様な施策が展開されている。

こうした状況の中で、私たちは、生涯学習社会の形成をめざす観点に立って、全国各地で実践してきた社会教育活動の状況や研究の成果等を持ち寄り、相互の交流と研究討議を深めた。

その結果、生涯学習社会を築くためには、家庭、地域社会、学校、企業、各種関係団体及び行政が、各々の役割を果たすとともに相互の連携を深め、協力し合うことが肝要であり、中でも、最も広範で重要な領域である社会教育の役割と責務が極めて大きいことを自覚し、一層の努力を誓い合った。

しかし、社会教育行政を取りまく現状はなお課題が多く、その解決のために、新たな対応が求められている。そこで、本大会参加者の総意をもって、次の事項の早期実現を期すものである。

- 一 人権を尊重し、差別のない明るい社会を実現するための教育を積極的に推進すること。
- 一 心豊かで、たくましく生きることのできる青少年の育成を図ること。
- 一 人々の学習活動を支援するため、社会教育施設、設備を拡充するとともに、社会教育の専門的指導者の充実・確保を図ること。
- 一 今日的課題に対応し得る社会教育を推進するため、社会教育関係法の整備を促進すること。
- 一 社会教育を積極的に推進するため、財政基盤の確立を図ること。

以上、宣言する。

平成六年十月六日

第三十六回全国社会教育研究大会（岩手大会）

第21回 ヨーロッパ社会教育視察団参加者募集

本会は昭和50年度より毎年社会教育委員、教育委員、社会教育行政職員、社会教育団体会員等のためにヨーロッパ諸国の社会教育事情の視察団を編成し、実施して参りました。本年も下記の内容で第21回ヨーロッパ社会教育視察団の団員募集を開始致しますので、またとない機会に是非ご賛同頂きご参加をお勧め致します。

1. 目的 ヨーロッパ各地の社会教育施設を見学して、その活動状況を視察する。さらに各国の著名なる建造物、史跡、博物館・美術館を巡り教育文化を学ぶ。
2. 期間 平成7年11月13日(月)～11月24日(金)
3. 旅程 東京→ベルリン(3泊)→ローマ(2泊)→マドリッド(3泊)→パリ(2泊)→東京
4. 主要視察先
 - ①ベルリン＝市民大学、スポーツクラブ、ブランデンブルグ門、カイザー記念教会、ウインターデンリンデン、壁の跡、マリア教会、ベルガモン博物館
 - ②ローマ＝成人学校、生涯教育センター、バチカン博物館、スペイン広場、トレビの泉、ベネチア広場、フォロロマーノ、コロッセオ
 - ③マドリッド＝成人教育協会、スポーツ施設、王宮、スペイン広場、ブラド美術館、グランビーア、マヨール広場、闘牛場
 - ④パリ＝ルーブル美術館、凱旋門、ノートルダム寺院、コンコルド広場、エッフェル塔、オペラ座
5. 参加経費 469,000円(全朝食付、ベテラン添乗員が全行程ご案内致します。)
 - ※社会教育委員の方には、本会から20,000円の助成金があります。
 - ※全食事を加えた場合75,000円の追加経費でご手配致します。
6. 募集人員 25名(先着順、定員になり次第締切)
7. 募集締切 10月13日(金) 10月下旬旅行説明会開催
8. 応募方法 はがきで全国社会教育連合へお申し込み下さい。
 - ※訪問都市各地で世界的に有名な博物館を見学します。
 - ※地方より参加の方々の為に集合は夕刻に帰国は早朝に設定しました。
9. 旅行業務 旅行に関する一切の業務は、近畿日本ツーリスト(株)虎ノ門海外旅行支店が担当します。
10. 連絡申込先 〒100 東京都千代田区霞ヶ関3-2-3 国立教育会館内
社)全国社会教育委員連合 TEL. 03-3580-0608

第37回全国社会教育研究大会をめざして

「空青し 山青し 海青し 日はか
がやかに」和歌山県の生み出した文豪
佐藤春男先生によってうたわれました
紀州和歌山県で、平成7年11月8日よ
り3日間、全国各地から社会教育委員
をはじめとする社会教育関係者の方々
をお迎えして、第37回全国社会教育研
究大会の開催をめざし、ただ今準備等
に取り組んでいるところです。

会場となります和歌山市は、紀州の
西北にありまして、作家有吉佐和子で
有名な紀ノ川の河口に位置しておりま
す。

瀬戸内海の一部を占め、緑あふれる
豊かな自然、黒潮洗う温和な気候に恵
まれたまちでございます。

古くは徳川御三家の一つ紀州藩五十
五万五千石の城下町として栄え、今な
お悠久のロマン漂うまちでございます。

折しも、NHKの大河ドラマ「八代
将軍吉宗」の放映中でございます。

「紀伊国の 雑賀の浦に 出で見れば
海人の燈火 波の間ゆいゆ」昔から紀
州の海の美しさは、万葉歌人の憧れの
的でございます。この浜辺にたえずむ
時、人は詩人になります。

刻一刻と表情を変える海、空と山、
そして、光と風、年間を通じて明るい

陽光を照らし出されます黒潮洗う名
勝、蟻の熊野詣でで有名な旧跡、千古
の神秘を秘めました高野山・豊かな湯
量を誇ります白浜・勝浦温泉群、和歌
浦湾を埋めて造りました人工島、二九
八万人の御参加をいただいで終了しま
した世界リゾート博の跡地であるマ
リーナシティーと新旧の魅力あふれる
和歌山でございます。

さらに、文化創造の拠点施設として
平成6年7月にオープン致しました県
立近代美術館・博物館。先に開館いた
しました「きのくに志学館」とともに、
ぜひご覧いただきたい施設でございます。

アクセスは、新幹線を使っていただ
いて、大坂・新大阪駅から一時間でご
ざいます。また、新しくできました関
西新空港からバスを利用いただきました
と、会場の県民文化会館まで直通で45
分で参ります。

すばらしかった岩手大会に学び、ま
た、近畿ブロックの各府県の御協力を
いただきながら準備を整えまして、皆
様方のお越しをお待ち申し上げており
ます。

次に、大会開催要項を要約します。
◇研究主題

「現代的課題に対応する社会教育の在
り方を考える」

◇期日
平成7年11月8日(水)
10日(金)3日間

◇会場
和歌山県民文化会館 ほか

◇大会日程
「第一日」開会行事 13時～14時
・主催者挨拶 ・表彰式典
・祝辞 文部大臣 和歌山県知事
・歓迎の言葉 和歌山市長
シンポジウム 14時～15時30分
「自然と文化をいかす地域づくり」
「第二日」 10時～15時
部会別研究協議 10部会で構成
「第三日」 10時～12時
記念講演 閉会行事

◇部会名と研究主題
①学習機会の充実
人々の多様なニーズに対応する学
習機会の在り方を考える。

②生涯学習施設の整備・活用
生涯学習時代に対応した社会教育
施設の活用と整備の在り方を考え
る。

③ボランティア活動
人々の学習活動を支援する人材の
育成と活用の在り方を考える。

④青少年教育・家庭教育
時代の変化に対応した青少年・家
庭教育の在り方を考える。

⑤高齢者教育
高齢者の生きがいを高める社会教
育活動の在り方を考える。

⑥国際理解・国際交流
国際的視野に立って、相互理解と
交流への関心を高める方策を考え
る。

⑦同和教育・人権教育
人権を尊重し、差別のない明るい
地域づくりをめざす社会教育活動を
考える。

⑧学習情報・学習相談
人々の学習活動を支援するための
情報提供・相談体制機能の在り方を
考える。

⑨地域の活性化・まちづくり
地域の特性をいかし、文化の創造
をめざすまちづくりの方策を考える

⑩文化・スポーツ活動
ふるさと文化の伝承・創造と生涯
スポーツの在り方を考える。

多くの皆様方の御参加をお願いいた
しまして、次回の開催地の御挨拶とい
たします。

和歌山県社会教育委員

連絡協議会会長

第37回全国社会教育研究大会

実行委員長 久 昭三

事務局だより

◆平成6年度第2回総会終わる

平成6年度第2回目の総会が第36回全国大会(岩手大会)の第1日目に次の通り開催されました。

日時 平成6年10月4日(火)
16時40分～17時30分

会場 岩手県水産会館 大会議室

総会は定刻に司会者より開会を宣し本総会は定款第26条により定足数(正会員数60名中出席者56名)を満たし成立する旨を告げ、まず鈴木勲会長の挨拶があり、次に水本光夫第36回全国大会実行委員長より全国大会開催について各県のご協力に対してお礼の挨拶がありました。

ひきつづき議長の選任を行い、鈴木完一福島県会長を選出し、議事録署名人として落合勝雄茨城県会長と宇津木喜義東京都市町村会長を指名して議事に入りました。

第1号議案 第37回(平成7年度)全国大会の開催について

久昭三和歌山県会長より大会開催要項案について詳細に説明があり、期日は平成7年11月8日(水)、9日(木)、10日(金)の3日間、和歌山市の和歌山県民文化会館において開催したい旨発表があり、満場一致で承認、可決されました。

第2号議案 第38回(平成8年度)全国大会開催地区(ブロック)について

て

石浦事務局次長より、第38回全国大会の開催地は関東甲信越静地区になる旨発表した結果、全員意義なく承認されました。

◆平成7年度地区別開催

第3号議案 寄附金について
石浦事務局次長より、平成6年度第1回総会において、「寄附金納入促進の方法として協力依頼の文書を出すように」との意見が出されたのに対して、鈴木会長名で「基本金増強募金事業目的達成のお願い」を、小杉山専務理事名で「基本金増強募金の納入について」の依頼文を、各協議会ごとに納入状況を記入し協力依頼の文書を出した経緯と「基本金増強募金事業(平成4年度・5年度)都道府県・指定都市別納入一覧表」(平成6年9月27日現在)について説明、若干の質疑応答があり了承されました。

◆平成7年度地区別開催

平成7年度地区別(ブロック)社会教育研究大会の開催県、開催期日、会場が次の通り決定しました。

- 北海道地区 羽幌町
- 期日 平成7年9月6日・7日
- 会場 羽幌町 中央公民館
- 東北地区 青森県 三沢市
- 期日 平成7年9月26日・27日
- 会場 三沢市「古牧温泉」
- 関東甲信越静地区 千葉県 鴨川市
- 期日 平成7年9月13日・14日

会場 鴨川グランドホテル

・東海北陸地区 岐阜県 岐阜市
期日 平成7年9月28日・29日
会場 岐阜長良川国際会議場

・中国・四国地区 広島県 広島市
期日 平成7年10月25日・26日
会場 広島市青少年センター

・九州地区 鹿児島県 鹿児島市
期日 平成7年10月26日・27日
会場 鹿児島県文化センター

・指定都市 広島市
期日 平成7年5月18日
会場 メルパルク広島

◆県の社教連会長に就任(敬称略)

新潟県 原田新司

◆社教連会長表彰について

社会教育の推進に特に貢献し、社教連の発展に功績のあった社会教育委員及び関係職員を表彰する式典が、10月4日第36回全国社会教育研究大会の会場岩手県民会館で行われました。

表彰者には鈴木会長から表彰状と記念品が贈られました。表彰された方は各協議会会長より表彰候補者として推薦された中から、鈴木会長が決定した66名の方々です。

◆御見舞

一月一七日早朝に発生した阪神大震災による被災者と関係者の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

社教情報 32号 [A5判 64頁] 定価 300円(税込) 190円 平成7年2月下旬発行予定

全国でご活躍の社会教育委員を結ぶ唯一の機関誌であります「社教情報」第32号を下記により発行いたします。全国各地の社会教育委員の交流と研修の糧として、ご購入下さいますようお願いいたします。

特集「学校週5日制と社会教育」

- ◆論文 学校週5日制と社会教育 埼玉県民活動総合センター理事長 竹内克好
- ◆解説 学校週5日制とボランティア活動 横浜国立大学教授 吉川 弘
- 学校週5日制と世代間交流 大正大学助教授 蛭田道春
- ◆事例 秋田県鷹巣町社会教育委員 宮城県岩沼市立南小学校 新潟県三和村教育委員会
- 国立山口徳地少年自然の家 ◆レポート 熊谷クメ子(宮城県山元町) 船越 修
- (京都府丹波町) 島崎秋芳(長崎県小長井町) 伊藤裕重(大分県佐伯市)
- ◆視察報告 第20回 欧州社会教育視察団 ◆随想 ◆思考と提言

編集/社団法人 全国社会教育委員連合 発行/財団法人 全日本社会教育連合会